

教科名	国語科	校 種	中学校
-----	-----	-----	-----

科 目 の 配 当				
学年	科目名	必・選	単位	授業展開など、授業の形態
1 年	国語	必	4	5時間のうち1時間を書写に配当
	書写	必	1	
2 年	国語	必	4	5時間のうち1時間を書写に配当
	書写	必	1	
3 年	国語	必	4	

科目名（教科名）	国語（国語科）				
学年	1	単位数	4	必修・選択・展開	必修

■ 授業の目的

1. 思考力・読解力を養い、「言葉」の持つ力を交流のツールとしながら仲間とともに成長する自分を実感する。
2. 様々な文章を読んで、内容を読み取る力を付けたり多様な価値観に触れたりして物事を多角的に考える。
3. 時代を超えて語りかけてくるものを感じ取り、伝統文化・日本語の美しさを大切にすることを学ぶ。

■ 授業計画

学 期	授 業 の 項 目		内 容
1 学 期	導入 単元1 単元2 単元3 作文	詩、言葉に出会うために 学びをひらく 新しい視点で 言葉に立ち止まる	・詩に書かれている言葉に注目しながら詩の世界観を想像する。 ・小説や随想に描かれた登場人物の心理を捉える。 ・文章の構成をとらえ、筆者の主張を読み取る。 ・正しい文章の書き方を学ぶ。 ・原稿用紙の使い方を学ぶ。 ・文章を書き、自分の考えを表す力、書く力を養う。
2 学 期	単元4 単元5 単元6 漢字能力検定への取り組み	心の動き いにしえの心に触れる 価値を見いだす	・作品中の登場人物が置かれた時代背景を基に心情を捉える。 ・音読により古文を味わい、読解方法を学ぶ。 ・古文の特徴を知り、歴史的仮名遣いを学ぶ。 ・故事成語や四字熟語を習得する。 ・それぞれの取得級の目標に向かい、合格点に達するよう学習する。
3 学 期	単元7 漢字能力検定への取り組み 一年間の総復習	自分を見つめる	・文学作品を鑑賞し、様々な価値観や人生を体験する。 ・教科書以外の演習問題に多く取り組むことで基本的国語力を養い、次年度に繋げる。 ※生徒の実態に応じて内容、進度が変更されることがある。 ※年間を通じて文法知識の習得に取り組む。
評価の 観点	【知識・技能】（40%）	社会生活に必要な知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができる。	・定期試験の知識問題 ・抜き出し問題、正誤判断
	【思考・判断力・表現】（30%）	筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにすることができる。	・定期試験の思考問題 ・論旨のまとめ、意見記述、 ・作文・プレゼンテーション ・発表・話し合い
	【主体的に学習に取り組む態度】（30%）	言葉が持つ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとしている。	・小テスト・ノート ・授業態度・課題提出
評価の方法 と割合	● 評価方法：定期試験における成績状況と提出物・小テスト・授業態度を加味し総合点を算出する。 ● 割合：定期試験 70 % 平常点 20 % 書写 10 %		
教科書・ 副教材等	● 教科書：「中学校国語1」（光村図書） ● 副教材：「定期テスト対策問題集」（光村図書）「漢字スキル」（光村教育図書） 「新文法ノート」（浜島書店） 「新・国語の便覧」（正進社）		

※生徒の実態に応じて、内容や進度等が変更されることがある。

科目名（教科名）	書写（国語科）				
学年	1	単位数	1	必修・選択・展開	必修

■ 授業の目的

1. 字形を整え、文字の大きさ、配列・配置などに気をつけて書くこと。
2. 漢字の楷書とそれらに調和した仮名を注意して書くこと。
3. 漢字の行書の基礎な書き方を理解して書くこと。

■ 授業計画

学 期	授 業 の 項 目		内 容
1 学期	○はじめに ○楷書で書こう ○硬筆		・筆記具の歩みを知る。 ・毛筆書写の姿勢・執筆法を学ぶ。 ・文房四宝とその扱いについて学ぶ。 ・文字の筆使い・筆順・字形・配列など整えて書く。 ・楷書の基本的な点画に留意して書く。 （始筆・送筆・終筆） ・全国硬筆作品展覧会に出品する。
2 学期	○楷書と仮名を調和させて書こう ○創作 ○書き初め ○実用書		・漢字と仮名の大きさやバランスについて学ぶ。 ・学院祭書道展の作品づくりをする。 ・全国書きぞめ作品展覧会に出品する。 ・年賀状と季節の挨拶状を書く。
3 学期	○行書で書いてみよう ○目的や必要に応じて書こう		・行書と楷書の違いを知る。 ・行書の基本的な筆法を習得する。 （丸み・連続・方向・形の変化） ・硬筆練習をする。
評価の 観 点	【知識・技能】（30%）	楷書の基本点画や、行書の基本筆法、ひらがなの筆づかいなど、社会生活に必要な書写の知識や技能を身につけるとともに、我が国の文字文化に親しみ、理解することができたか。	・学習プリント ・練習作品
	【思考・判断力・表現】（40%）	基本筆法をふまえたうえで、書を通して考える力や、豊かに感じ想像する力を養い、日常生活において文字を使って伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにすることができたか。	・創作作品 ・硬筆作品展覧会出品
	【主体的に学習に取り組む態度】（30%）	先人が書いてきた文字や、遺されてきた文献を読んで、書かれた文字や内容について理解し、興味を持つことができたか。伝統的な言語文化に触れ、大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度が養えたか。	・授業態度・課題提出 ・硬筆練習の取り組み方
評価の 方法と 割 合	● 評価方法：作品制作点と平常点（硬筆練習帳など）により、成績を算出する。 ● 割合：作品制作点70％・平常点30％ 国語の成績の中に、書写の成績を含んで、学期毎に算出する。		
教科書・ 副教材等	● 教科書：中学書写（教育出版） ● 副教材：硬筆練習帳（教育出版）		

※生徒の実態に応じて、内容や進度等が変更されることがある。

科目名（教科名）	国語（国語科）				
学年	2	単位数	4	必修・選択・展開	必修

■ 授業の目的

1. 思考力・読解力を養い、「言葉」の持つ力を交流のツールとしながら仲間とともに成長する自分を実感する。
2. 様々な作品に触れることで、語彙力を養うと共に、言葉・芸術・社会・自然についての認識を広げる。
3. 時代を超えて語りかけてくるものを感じ取り、伝統文化・日本語の美しさを大切にすることを学ぶ。

■ 授業計画

学 期	授 業 の 項 目		内 容
1 学期	導入	詩（見えないだけ）	・登場人物の設定に関する情報を、図に表して整理する。 ・登場人物の心情変化を捉える。 ・説明文の構造や、使われている図表と文章の関係性を学ぶ。 ・古典作品を読み、昔の人々のものの見方に触れる。 ・短歌に用いられた表現方法を学ぶ。 ・作文の正しい書き方を学ぶ。
	単元 1	広がる学びへ	
	単元 2	多様な視点から	
	単元 3	言葉と向き合う	
2 学期	単元 4	人間のきずな	・随筆について学び、描かれている人物や出来事の表現から筆者の思いを考える。 ・意見とその根拠を探し、論理的思考を高める。 ・自分が持っている知識と筆者の主張を結び付け、地球の未来を考える。 ・音読と暗誦により、古文を味わい読解方法を学ぶ。 ・故事成語や四字熟語を習得する。 ・それぞれの取得級合格を目指す。
	単元 5	論理を捉えて	
	単元 6	いにしへの心を訪ねる	
	単元 7	価値を語る	
漢字能力検定に向けての取り組み			
3 学期	単元 8	表現を見つめる	・文学作品を読み、場面の展開と登場人物の人物像を読み取る。 ・登場人物の人物像の変化に気付く。 ・詩を深く読み、作者のものの見方と自分の経験を結び付ける。 ・教科書以外の演習問題に取り組むことで基本的国語力を養う。 ・近代から現代までの有名作品群を知り、教養を身に付ける。 ・それぞれの取得級合格を目指す
	漢字能力検定に向けての取り組み		
通 年	漢字 文法	・新出漢字を学習することで、漢字の意味を理解し文章の中で適切に使いこなす力を養う。 ・口語文法知識の習得に取り組み、正しいことばの使い方を身につける。	
評価の 観点	【知識・技能】（40%）	社会生活に必要な知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができる。	・定期試験の知識問題 抜き出し問題、正誤判断、漢字
	【思考・判断力・表現】（30%）	筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにすることができる。	・定期試験の思考問題 論旨のまとめ、記述、語句説明 ・作文・プレゼンテーション ・発表・話し合い
	【主体的に学習に取り組む態度】（30%）	言葉が持つ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとしている。	・小テスト・ノート作り ・授業態度・課題提出
評価の方法 と割合	● 評価方法：定期試験における成績状況と提出物・小テスト・授業態度を加味し総合点を算出する。 ● 割合：定期試験 70 % 平常点 20 % 書写 10 %		
教科書・ 副教材等	● 教科書：「中学校国語2」（光村図書） ● 副教材：「定期テスト対策問題集」（光村図書）「漢字スキル」（光村教育図書） 「新文法ノート」（浜島書店） 「新・国語の便覧」（正進社）		

※生徒の実態に応じて、内容や進度等が変更されることがある。

科目名（教科名）	書写（国語科）				
学年	2	単位数	1	必修・選択・展開	必修

■ 授業の目的

1. 字形、文字の大きさ・配列・配置などに配慮し、目的や必要に応じて調和よく書くこと。
2. 漢字の楷書や行書とそれらに調和した仮名の書き方を理解し、読みやすくていねいに書くこと。

■ 授業計画

学 期	授 業 の 項 目		内 容
1 学期	○楷書の特徴 ○行書の特徴 ○創作 ○硬筆 ○実用書		・楷書と行書の違いを知る。 ・学院祭書道展の作品づくりをする。 ・全国硬筆作品展覧会に出品する。 ・暑中見舞い状を書く。
2 学期	○楷書を深める ○行書を深める ○仮名 ○書き初め ○実用書		・中国の古典作品の筆使い・字形・配列を学ぶ。 ・行書に合う仮名、連綿について学ぶ。 ・全国書きぞめ作品展覧会に出品する。 ・年賀状と季節の挨拶状を書く。
3 学期	○漢字と仮名の調和 ○創作 ○硬筆		・仮名の表現について学ぶ。 ・平仮名…いろは歌のもとになった漢字について学ぶ。 ・短歌、俳句を書く。 ・中学校書写の集大成としての作品づくりをする。 ・硬筆練習帳に取り組む。
評価の 観点	【知識・技能】（30%）	楷書の基本点画や行書の基本筆法、ひらがなの筆づかいなど、社会生活に必要な書写の知識や技能を身につけるとともに、我が国の文字文化に親しみ、理解することができたか。	・学習プリント ・練習作品
	【思考・判断力・表現】（40%）	基本筆法をふまえたうえで、書を通して深く考える力や、豊かに感じ想像する力を養い、日常生活において文字を使って伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにすることができたか。	・創作作品 ・硬筆作品展覧会出品
	【主体的に学習に取り組む態度】（30%）	先人が書いてきた文字や、遺されてきた文献を読んで、書かれた文字や内容について理解し、興味を持つことができたか。伝統的な言語文化に触れ、大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度が養えたか。	・授業態度・課題提出 ・硬筆練習帳の取り組み方
評価の方法と割合	● 評価方法：作品制作点と平常点（硬筆練習帳など）により、成績を算出する。 ● 割合：作品制作点70％・平常点30％ 国語の成績の中に、書写の成績を含んで、学期毎に算出する。		
教科書・副教材等	● 教科書：中学書写（教育出版） ● 副教材：硬筆練習帳（教育出版）		

※生徒の実態に応じて、内容や進度等が変更されることがある。

科目名（教科名）	国語（国語科）				
学年	3	単位数	4	必修・選択・展開	必修

■ 授業の目的

1. 語彙力を豊かにし、文章構成と適切な文章で正しく表現する力を養う。
2. 様々な作品を通して思考力・読解力を養いながら、視野を広げ自己の価値観を構築していく。
3. 古典の学習に必要な事項を学び、高等学校での学習の準備をする。

■ 授業計画

学 期	授 業 の 項 目		内 容
1 学 期	導入	詩（世界はうつくしいと）	・ 文章中の表現から登場人物の人物像を捉える。 ・ 歴史的背景に注意しながら漢文を読み、当時の人々の思いを読み取る。 ・ 漢文の訓読について学ぶ。 ・ 論理の展開において、具体と抽象の内容の関係を捉える。 ・ 俳句の表現方法について学び、鑑賞を行う。 ・ 作文の正しい書き方を学ぶだけではなく、展開を意識した文章を書くことができるようにする。
	単元 1	深まる学びへ	
	単元 2	視野を広げて	
	単元 3	言葉とともに	
	作文の書き方をマスターする		
2 学 期	単元 4	状況の中で	・ 登場人物の生きた時代背景を考えながら文学作品を鑑賞する。 ・ 近代の中国史について学ぶ。 ・ 現代社会と詩に描かれている時代背景を比較し、作者の思いを読み取る。 ・ 近世の紀行文の代表作に触れ、伝統文化との接点を確認する。 ・ 説明文や評論の構成方法を学び要旨を的確にとらえる。 ・ それぞれの取得級の合格点に向けて学習する。
	単元 5	自らの考えを	
	単元 6	いにしえの心を受け継ぐ	
	単元 7	価値を生み出す	
	漢字能力検定への取り組み		
3 学 期	単元 8	未来へ向かって	・ 随筆文を読み、筆者の人生について考えを深める。 ・ 詩を読み、詩の中の表現から筆者が伝えたいことを読み取り、自分達の将来を考える。 ・ 文学史の総復習。 ・ 学力診断テストに向け、中学校の総復習をする。 ※漢字語句・語彙、文法は通年で学習していく。 ※生徒の実態に応じて内容、進度が変更されることがある。
	中学校の総復習		
評価の 観点	【知識・技能】（40%）	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができる。	・ 定期試験の知識問題 抜き出し問題・正誤判断・漢字
	【思考・判断力・表現】（30%）	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	・ 定期試験の思考問題 意見記述・語句説明・論述問題 ・ プレゼンテーション・作文 ・ 話し合い
	【主体的に学習に取り組む態度】（30%）	言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思うや考えを伝え合おうとする。	・ 小テスト・ノート作り ・ 授業態度・課題提出
評価の方法 と割合	● 評価方法：定期試験における成績状況と提出物・小テスト・授業態度を加味し総合点を算出する。 ● 割合：定期試験 70 % 平常点 30 % 3学期は平常点 30 %に学力診断テスト 10 % を含む		
教科書・ 副教材等	● 教科書：「中学校国語3」（光村図書） ● 副教材：「定期テスト対策問題集」（光村図書）「漢字スキル」（光村教育図書） 「新文法ノート」（浜島書店） 「新・国語の便覧」（正進社）		

※生徒の実態に応じて、内容や進度等が変更されることがある。